



明化の教育

12月号(第462号)
平成30年11月30日
文京区立明化小学校
校長 溝畑 直樹

受けとめ 考えて 受け入れる

校長 溝畑 直樹



今年度のくすのき祭り

冒頭にあたって、すばらしいニュースを紹介いたします。本校のPTAが今年度の『日本PTA全国協議会会長賞(団体)』を受賞いたしました。11月21日には、皇太子殿下・雅子妃殿下御臨席のもと、表彰式が執り行われたところです。今や学校には欠かせない行事となった明化くすのき祭をはじめ、日常の見守り活動や、各種リサイクル活動、学校行事や地域行事へのご協力、会長による毎朝の挨拶運動に到るまで、常に子供たちのためにお力添えをいただいている明化小PTAの活動が、このような栄えある受賞となって実を結ぶことは、ほんとうに素晴らしいことです。全ての会員のみなさんと共に、受賞を喜び、そして、明化小PTAの活動にご尽力いただいた多くの先輩方に対し、改めて感謝と敬意を表します。本当におめでとうございました。

先日、6年生は清水展人(しみず ひろと)さんとテレビ電話を使って交流する学習を行いました。電子黒板があるおかげで、遠く徳島県にいらっしゃる清水さんとも、このようにライブでやり取りをすることができます。本当に便利になりました。

清水さんは女性の体をもって生まれました。展子(ひろこ)の名で「女の子」として過ごしてこられました。女性に違和感を覚え、自らの性を受け入れることができず、大変苦しまれたそうです。大学生になって、ようやくご両親に自らの苦しみを打ち明けます。その後手術をし、お名前も展人と変えて戸籍上も男性となりました。現在はご結婚もされており、奥さまは精子提供を受け現在妊娠中です。「僕は間もなくパパになります。」と笑顔で子供たちに話しておられました。清水さんは子供たちに向かって「性には体の性と心の性があります。それは女か男かの両極ではなく、虹の色のようにいろいろなとらえ方ができるものじゃないかと思えます。」と話してくださいました。それは、まさに「多様性をどう受け止めるか」ということであり、「皆が同じなわけではない、それぞれが違っている、違っていることが当然だ」という事実、君はどう向き合うのか」という清水さんからの問いかけだったと思えます。

本校の6年生は、人権教育の中で「自分らしさ」について一年間考える学習を続けています。その中で、小学生にとって扱いが難しい性の問題も「自分らしさ」としてとらえてもらおうと試みています。授業の最後に清水さんへの質問タイムがあり、ある女子児童がこんな質問をしました。「清水さんは、生まれてくるお子さんにご自分が女性であったこととお話しされますか?」と。この学習のテーマである「自分らしさ」に思いが至らなければこの質問は出てきません。そして清水さんのお答え、「もちろん。できるだけ早い時期に話そうと思えます。」も自分らしく生きている人にしかできない誇り高いお答えだと思えました。

12月14日には人権尊重教育推進校としての2年間の取組の成果を発表いたします。一人ひとりの子供が人権についてどう受け止め、どう考え、どう受け入れたかをできるだけ具体的にお伝えできる発表会にしたいと考えます。多くのみなさまのご参会、お待ちしております。

早いもので、東日本大震災から8度目の冬が被災地に訪れようとしています。今年も、西日本豪雨、度重なる台風被害、大阪や北海道での地震など、自然災害が多く起こった年でした。

被災された皆さまに心からお見舞いを申し上げますとともに、平成31年は、被災地の町にも幸せがたくさんある一年でありますようにと心から祈ります。